

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

4月に中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果をもとに、本校生徒の学力状況を分析しました。本校の課題と今後の具体策についてお知らせします。なお、この調査結果は、あくまでも学力の一部ととらえています。

本校の結果は、国語A・Bは「全国と同程度」、数学A・Bは「全国を上回っている」、理科は「全国を上回っている」でした。（「A問題」は主として知識を問う問題、「B問題」は主として活用する力を問う問題）しかし、全国などと同様、国語、数学ともA問題よりもB問題の正答率が低い結果でした。

◎国語では

「文章に即して漢字を正しく書くこと」(A問題)や「質問の意図を捉えること」(B問題)はよくできています。しかし、「文章の展開に即して情報を整理し内容を捉えること」(A問題)、「文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えること」(B問題)等に課題があります。そこで、以下の点に重点を置いて取り組んでいきます。

- ① 新聞記事を比較したり、グラフを用いた文章から情報を整理する活動を取り入れる。
- ② 自分の考えを発表するだけでなく、一文にまとめたり書いて整理する活動を今後も継続する。また、穴埋めの形式を使ったり、書くときの条件を明確にするなど、力に応じて文章が書けるような手立てを取り入れる。
- ③ 比喩や表現技法に着目し、それらが何を表現しているか、また、表現技法を用いて筆者が何を伝えようとしているかなどを考える活動を今後も継続する。

◎数学では

「数と式」(A問題)では正答率が高く、基礎・基本が定着しています。しかし、資料の活用(B問題)や記述式の問題(B問題)を苦手としている様子が見られます。

知識を問う問題Aと活用する問題Bには強い相関が見られます。基礎的な内容をしっかり理解することが活用する力を伸ばすことにつながります。そこで、次のことに重点を置いて取り組んでいきます。

- ① 授業の「めあて」と「まとめ」を徹底継続し、基礎・基本のさらなる定着を図る。
- ② 少人数での話し合いや「書く」「発表する」という学習活動を充実させる。
- ③ 小さな疑問や質問に対してその場で対応できるよう、複数指導を活用した指導の工夫に努める。

◎理科では

「電流計のつなぎ方や電流計の電気用図記号の知識」等はよくできていましたが、「自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画すること」等に課題があります。そこで、次のことに重点を置いて取り組んでいきます。

- ① 実験の条件設定を行う際、考えられる条件をすべて挙げ、課題解決に向けて適切な条件を選択できるよう指導する。
- ② 自分の考えを、対話を通して検討・改善する学習活動を充実させる。
- ③ 話し合った内容や気がついた点を文章やスケッチで表現する活動を取り入れる。

学校では、すべての教科で、『授業における5つの「徹底・継続」実践事項』（①めあて・学習課題を提示する ②考えを発表する場を設ける ③話し合う活動の場面を設ける ④書く活動・活用する場面を設ける ⑤振り返りの活動を行う）に取り組んでいます。今回の分析をふまえ、今後も徹底して取り組んでいきます。